

事務事業評価

平成 24 年度

担当グループ 文化・スポーツ振興グループ

基本事項	事務事業名	自主文化事業				整理番号	0203	
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	○あり ●なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	▼	予科目	2 款 7 項 1 目	●継続 ○新規		
		節 第5節 文化活動の充実	▼	事業区	市民サービス事業 ▼			
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	地方都市にあつては、都会に比べ、芸術性の高い優れた舞台芸術や人気アーティスト等に接する機会が少ない。そのため、市民や文化団体からの強い要望により、いろいろなジャンルの公演ができる島原文化会館が、昭和49年に完成した。会館完成後、現在まで、年間4～5回の自主文化事業が開催されている。また、合併により有明文化会館においても、公演が可能となった。				計画期間	始期 昭和	年から
	事業の対象及び目的 (誰に、何を、どのような状態にしたいのか)	島原市民全体を対象とし、良質な公演等を安価で提供することにより、子どもから大人までの市民全体の文化の向上、精神的な充足を目的に開催する。						
	目的達成のための手段・方法	島原市自主文化事業利用者懇談会を開催し、利用者の声を聞きながら民意を反映した自主事業の選定を行い、さまざまな広報・広告媒体を上手に活用し、集客増に努める。(自主事業選定にあたっては、①芸術性②娯楽性③こども向け④人気アーティストの4本柱を基本として選定している。)						
	成果指標 (意図する状態の達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	22年度	23年度	24年度	
		①自主文化事業入場者(率)のアップ。大ホール客席90%以上の入場者を目標とする。(島原文化会館が1,200席、有明文化会館が700席のホールなので各館2公演とした時の90%を入場者の目標値とし、3,420人とする。)		目標 実績 達成率	人	3420	3420	3420
	活動指標 (意図する状態達成のために実施する活動等)	①自主文化事業利用者懇談会実施		目標 実績	回	1	1	
②		目標 実績 達成率	%					
事業費等の推移	年度		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画
	①直接事業費(千円)		22,949	16,636	16,370	16,463	16,890	
	財源内訳	国県支出金						
		地方債						
		その他	8,158	3,360	6,736	6,159	6,055	
		一般財源	14,791	13,276	9,634	10,304	10,835	0
	②従事職員給与費 b1×b2		5,722	5,730	5,734	5,789	2,183	0
従事職員数(人) b1	0.80		0.80	0.80	0.80	0.30	0.00	
	職員平均人件費 b2		7,153	7,162	7,168	7,236	7,277	
事業費合計 ① + ②		28,671	22,366	22,104	22,252	19,073	0	

【1次評価】

◎事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
目的 妥当性	①住民ニーズの変化等により事業の必要性や役割は変わっていないか	A=変わっていない B=一部変わった C=変わった 身近で本物の公演を鑑賞したいという住民ニーズは変わっておらず事業の必要性や役割は、変わらない。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に任せることはできないか	A=可能でない B=一部は可能 C=可能である 指定管理者等民間開催も考えられるが、過去に黒字になったことはなく赤字となるため、良質な公演を安価で提供するには市で実施すべきと考える。	A
	③対象等は事業目的に見合っているか、拡大や絞込む必要はないか、見直しによる費用対効果の向上が図られないか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 自主事業の性格上、現状に見合っていると思われる。入場料を安価にしているため、赤字はさげられないが市民の満足度は高い。	A
有 効 性	④事業の実施により所期の目的や目標がどの程度達成されているか	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 年間4~5公演を行っているが、ここ2年は、平均入場率が90%前後であり、市民からも好評を得ている。	A
	⑤成果の状況を踏まえ、手段等を工夫したり事業内容を見直すことで、成果をさらに向上させる余地はありませんか	A=十分成果が得られている B=検討の余地あり C=見直しが必要 懇談会等の意見を聞きながら事業選定(公演内容)し、成果の向上を図る。	A
効 率 性	⑥活動量や成果を下げずにコストを縮減できないか、投入された資源量に見合う結果が得られているか、改善の余地はありませんか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 懇談会等の意見を聞きながら適切な公演を選定すると共に、原則、前年度を下回る予算を目指す。	A
	⑦事業の効率性を上げるため、他の事業との統合や事務の省力化など見直す余地はありませんか	A=見直す余地はない B=統合等、検討の余地あり C=見直しが必要 事業が公演であるという特殊性から、事業の統合・事務の省力化は考えにくい。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 公演当日の運営は、グループ内や文化会館の協力を得ており、問題はない。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されていますか。全体コストから見て受益者の負担割合は適切か、使用料等の見直しの余地はありませんか。	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 公演については入場者が多数見込めるものを選定。コストと受益者負担(入場料)割合については、一概に言えないが概ね適切と思われる。(公演料の半額を入場料で賄うように設定している。)	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか		A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	A
判定評点平均			3.00
A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			

◎ 総合評価			
評 価 結 果	◎ A 継続実施(特段の見直しは行わない)	判 断 理 由	予算の範囲内で、市民のニーズにできる限り答えられるよう、事業選定を行い、より良いサービスの提供に努めている。市民参加のワークショップ(子ども狂言)も行っており、今後も継続実施の予定である。事業選定にあたっては、各種団体代表者の意見・要望を聞く自主文化事業懇談会をを開催し、事業選定の判断材料としている。
	B 改善・見直しを行う		
	○ B1 事業規模の拡充		
	○ B2 事業規模の縮小		
	○ B3 事業内容の改善・見直し		
○ B4 その他の見直し			
○ C 休止(隔年実施などへの変更)			
○ D 廃止(終期の設定等を含む)			
今後の課題及び改善策、見直しの状況	(実施上の課題等) 公演の選定にあたっては自主文化事業懇談会だけでなく、公演ごとにアンケートを実施し、広く市民の声を参考としたい。		
*総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 *本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。			

【2次評価】

総合判定	B3見直しのうえで実施 ⇒ 事業内容の改善
備考	市民ニーズに応じた事業選定をすること。また、最低でも公演料の半分の収入が見込めるような料金設定にしたり、子供向けの事業であっても有料化するような検討を。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① <input type="checkbox"/> 事業費縮減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの縮減	④ <input type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	(千円)